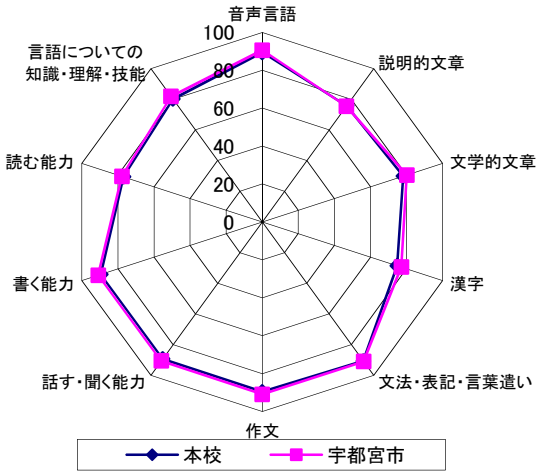
宇都宮市立陽東中学校第３学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	89.4	90.6
	説明的文章	75.8	75.5
	文学的文章	78.2	80.2
	漢字	74.8	77.2
	文法・表記・言葉遣い	90.7	91.0
	作文	89.6	90.9
観点別	話す・聞く能力	89.4	90.6
	書く能力	89.6	90.9
	読む能力	77.0	77.8
	言語についての知識・理解・技能	80.1	81.8



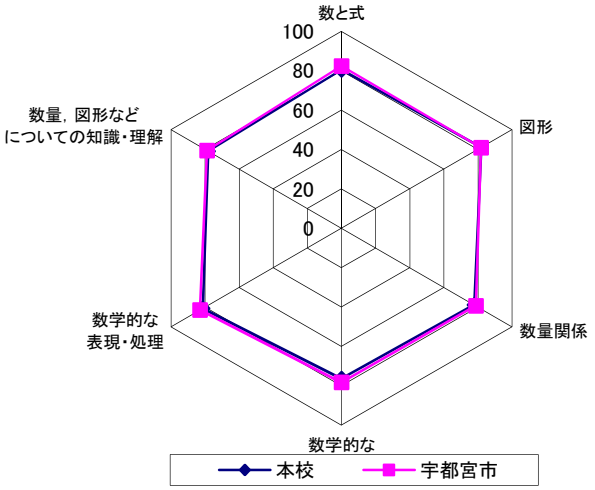
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (89.4%)	正答率は90%に近いが、宇都宮市の平均を1．2ポイント下回った結果になった。話の趣旨を聞き取る問題が市の平均正答率を2．6ポイント下回っていた。	これからの学習において、ペアを組んで意見交換を行ったり、グループでの話し合いを行いながら、言語活動として積極的に話し合いをしたり、聞き取る場面が必要になる。また、日常生活においても、集会や先生の話をより集中して聞くことが求められる。
説明的文章 (75.8%)	校内の正答率は75%で、昨年度よりも下がっているが、宇都宮市の平均より0．3ポイント上回っていた。文章の趣旨をとらえる問題の正答率が市の平均よりも4．8ポイント上回っていた。	説明的文章の読解では、その基本になる言葉の意味の解釈が必要である。そこで、この問題文で述べられていた「質の高い読書」の一環として、説明文を分析しながら読む習慣を身につけさせることが必要である。そのためには、新聞のコラムや新聞記事を読むことや、ベストセラーとして紹介されている説明文を手にすることなど、論理的な文章に触れさせる機会を作りたい。
文学的文章 (78.2%)	学校の正答率は78%であったが、市の平均より1．8ポイント下回っていた。とくに登場人物の心情を理解する問題では、宇都宮市の正答率を4ポイントほど下回った。	文学的文章の読解でも、登場人物の心情を理解する問題を解くことは重要である。そのため、心情を理解するための根拠となる表現を押さえ、どのような心情が読み取れるか論理的に考える指導を行うことが必要である。
漢字 (74.8%)	学校の正答率は約75%であったが、市の平均より2．4ポイント下回っていた。中学3年で習う漢字の読み書きの正答率が宇都宮市の平均よりも下がっている傾向が見られた。	ノートやワークシートの記入を行うときに、しっかりと漢字で書くように指導をする必要がある。また、漢字練習といった反復練習を行うことで力を付けさせたい。また、同音異義語や同訓異字の学習をおこなうことで語彙を増やしたい。
文法・表記・言葉遣い (90.7%)	正答率は90%と非常に高いものであったが、市の平均よりは0．3ポイント下回った。敬語の使い方の問題の正答率は市の平均を上回ったが、助動詞の識別の問題が市の平均を下回っていた。	3年生までの言語事項の学習が終わった時点で、文法の総復習を行うと、補強しなければならなくらる領域が見えることを踏まえて、復習問題にあたらせたい。
作文 (89.6%)	正答率は、ほぼ90%であったが、市の平均より、0．7ポイント下回っていた。「これまでに読んだ本について、その本を読んでいない人に内容を紹介する」問題の無回答率が多かったためと思われる。	自分の意見や考えを書くことについてあきらめずに取り組むことを伝えることが必要である。また、作文の指導で、短作文に取り組む学習を増やすことで、文章を書くことに慣れさせ、さらに字数の多い作文に取り組ませる工夫をしたい。

宇都宮市立陽東中学校第３学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	80.4	82.4
	図形	81.9	81.8
	数量関係	77.8	78.7
観点別	数学的な見方や考え方	76.3	78.3
	数学的な表現・処理	81.4	82.9
	数量，図形などについての知識・理解	78.2	78.8



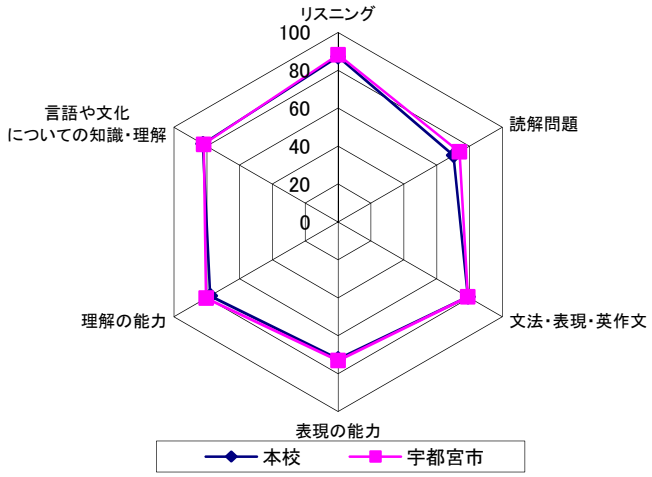
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (80.4%)	・宇都宮市と比べると、2.0ポイント低い。内容分析をしてみると、「平方根の変形」が6.8ポイント、「2次方程式の利用」が4.9ポイント、「平方根の加減」が4.4ポイント低いことが分かる。また、「2次方程式の利用」での記述式問題では、無回答が11.2ポイントあり、少し考えて分からない問題には、取り組まない傾向がある。学習した内容を定着させるための反復学習と1・2年で学習した内容の定着不足が考えられる。	・今年度の反省をもとに、平方根の意味や必要性をはっきりとさせ、平方根への理解を深めさせたい。また、平方根の計算では、平方根の変形を含めたドリル学習を多く取り入れていきたい。「2次方程式の利用」では、正しく課題を理解して数量関係を式に表す学習を充実させていきたい。
図形 (81.9%)	・宇都宮市と比べると、0.1ポイント高く、ほぼ同じである。内容分析をしてみると、「三角形の相似の証明」が2.4ポイント低い以外はすべて宇都宮市の平均をわずかではあるが上まわっている。特に、「三角形の相似比」は2.0ポイント高い。学習したばかりの内容であったことと、記述式ではなかったことが宇都宮市の平均を上回った理由だと考えられる。	・今回の結果から、三角形の相似比では、図を利用して対応する辺や角について丁寧に指導したい。また、相似条件についても合同条件と対比させながら丁寧に指導したい。図形の学習では問題に慣れることにより理解が深まることが考えられるので、問題提示の仕方や多様な問題に取り組ませる工夫をしたい。
数量関係 (77.8%)	・宇都宮市と比べると、0.9ポイント低い。内容を分析して見ると、「2乗に比例する関数の比例定数」は記述式問題であったが1.5ポイント高い。それ以外の問題はすべて下まわっている。「2乗に比例する関数のグラフ」が2.6ポイント低い以外は1.5ポイント前後の低さである。形式的に計算すればよい問題には進んで取り組むが、考え方ができていない生徒にとっては「変域」や「変化の割合」には消極的になってしまう傾向がある。	・関数の学習では苦手意識をもっている生徒が多いと思われるので、関数の式やグラフ、変域などを関連づけて丁寧に指導したい。また、理解を深めるために数多くの問題に取り組ませ、じっくり考える時間を設け繰り返し学習させたい。

宇都宮市立陽東中学校第３学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	87.1	88.2
	読解問題	70.3	73.9
	文法・表現・英作文	79.0	79.0
観点別	表現の能力	72.3	73.1
	理解の能力	77.9	80.4
	言語や文化についての知識・理解	82.4	82.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (87.1%)	昨年度に比べて正答率が6ポイントほど向上している。市の平均に対しては1ポイント下回るものの、昨年度の市と本校との差が6ポイントあったことに比べると、リスニングの定着の様子が伺える。リスニングを聞き、概略を把握することはできるているが、細部をきちんとメモを取りながら正確に聞き取ることが身に付いていないようである。	授業中に新出単語や教科書本文を聞かせるようにするだけではなく、単語の発音を覚えさせるために、何度も生徒に発音をさせる機会を多く持たせたい。場合によっては音読のテストなども行っていきたい。 また、ある程度まとまった英文を聞いて答えることができるようにするため、教科書などの内容を聞かせた後に内容を確かめる問いかけを英語で実施していきたい。
読解問題 (70.3%)	正答率は7割を越えているものの、昨年度に比べて0．2ポイント下がっている。対話文を読み、その内容についての空所補充の問題は市の平均と同等の結果を収めている。しかし、全体的には長文の内容把握を苦手とする生徒が多い。問題別の正答率を市と比較してもすべての項目において下回っている。原因として語彙力の不足が考えられる。	語彙力の向上を目指すため、新出単語の音読を繰り返し行うようにしてきたい。授業の冒頭に前回の新出単語や表現を復習する機会を積極的に行っていきたい。また、多くの問題に取り組ませ、様々な英文に触れさせることによって語彙力を増やすきっかけとしたい。また、教科書で扱う内容とは別に長文を読み解かせる機会を作りたい。
文法・表現・英作文 (79.0%)	正答率は3領域の中で、唯一市の平均と同等である。昨年度は市の平均に対して7ポイント下回っていたのに対し、今年度は本校との比較で9ポイントの向上している。授業の中での取り組みが成果に現れているようである。項目別にみると、文法・表現の知識・理解の問題では高い結果を得ているが、一方で語順を並び替える問題や英作文を苦手としているようである。	授業の冒頭で行っている文法や表現の復習などは定着している様子が今年度の結果によりわかった。生徒達が苦手としているのが語順を正しく並び替える問題なので、語順を覚えさせるために、単語のそれぞれの品詞を覚えさせることや文の構造を理解させていくことを徹底していきたい。 また、英作文は自己表現活動につながるため、生徒の関心の高い話題を授業で提供していきたい。